



道総研

日本海北部スケトウダラ魚群分布調査結果

令和 7 年（2025 年）10 月 6 日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場

（連絡先：稚内水試 呂 0162-32-7166）

- ◎魚探反応量は武蔵堆北部で前年より増加し、全体平均で前年比 1.2
- ◎留萌沖の底層水温は前年に比べて沿岸域で高め
- ◎トロール採集物の主体は、海底深度 250m 以浅では尾叉長 7～10cm 台（2025 年級）、海底深度 250m 以深では尾叉長 17cm 前後（2024 年級）と 20～29cm 台（2022, 2023 年級）

1. 調査概要

雄冬岬以北の道西日本海において、2025 年 9 月 2 日～9 月 6 日に試験調査船北洋丸の計量魚群探知機 EK80 および着底トロール網により、スケトウダラ魚群分布調査を実施し、暫定的に解析を行いました。

2. 魚探反応量

スケトウダラの魚探反応量（NASC）の分布を図 1 に、目立った魚探反応がみられた調査ラインの魚探画像を図 2 に、魚探反応量の経年推移を図 3 に示しました。今年の調査では、武蔵堆北部（ライン B）や小樽堆北部（ライン E）でまとまった反応がみられました。

ラインごとの平均反応量は前年から増加したところが多く、全体の平均 NASC は前年調査の 1.2 倍となり、現行の調査体制となった 2007 年以降では最も高く、前年に引き続き高い水準でした。

3. 海洋環境

留萌沖（ライン F）における水温の鉛直分布を図 4 に示しました。

今年の調査では、沿岸域（F1 付近）～海底深度 150m の海域（F2 付近）の底層水温は前年（2024 年）と比べて高い値でした。一方、沖合域では、水深 200m で 4℃前後と、前年より低い傾向にありました。

4. 漁獲物組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 5 に示しました。

トロール採集物の主体は、いずれの地点においても海底深度 250m 以浅では尾叉長 7～10cm 台（最頻値 9cm 台，0 歳，2025 年級）、250m 以深においては尾叉長 17cm 前後（2024 年級）と 20～29cm 台（2022, 2023 年級）の個体でした。

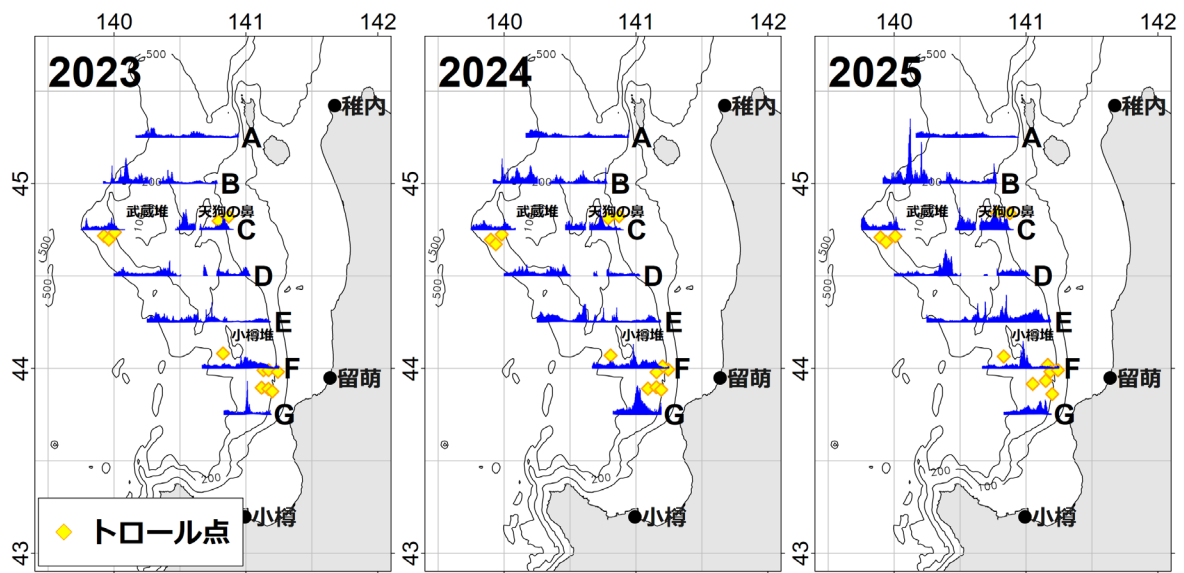


図 1. 魚探反応量の分布（海底深度 150m 以深）とトロール点の位置．

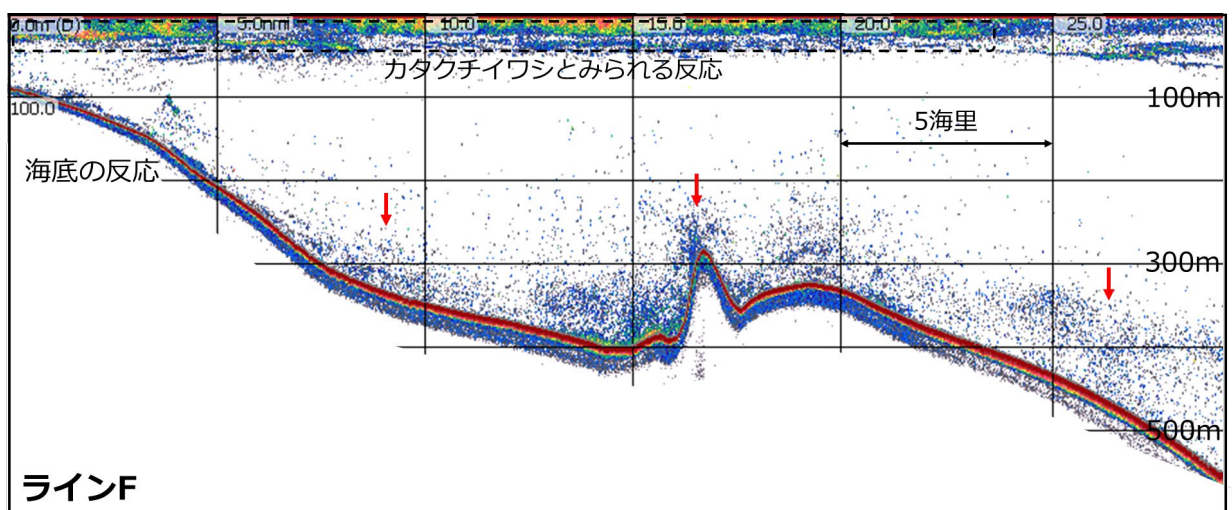
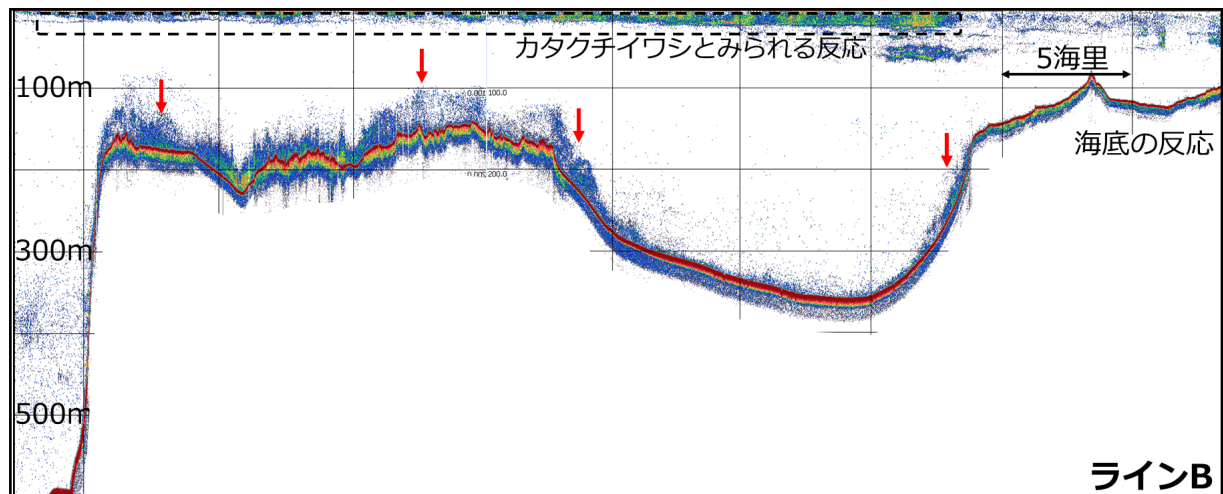


図 2. 目立った魚群反応が見られた調査ラインの魚探画像（エコーグラム）．
スケトウダラとみられる反応を赤矢印で示しています．

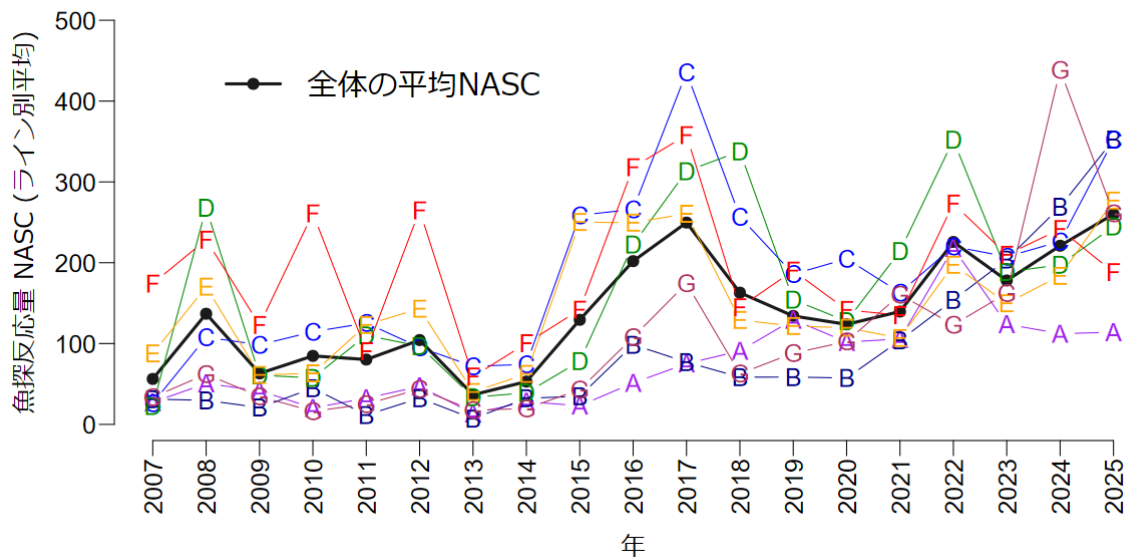


図 3. 魚探反応量 NASC の経年推移（海底深度 150～500m の平均値）.
 NASC：1 平方マイルあたりの魚探反応量で分布量の指標になります.
 図中のアルファベットは図 1 の調査ラインと対応しています.

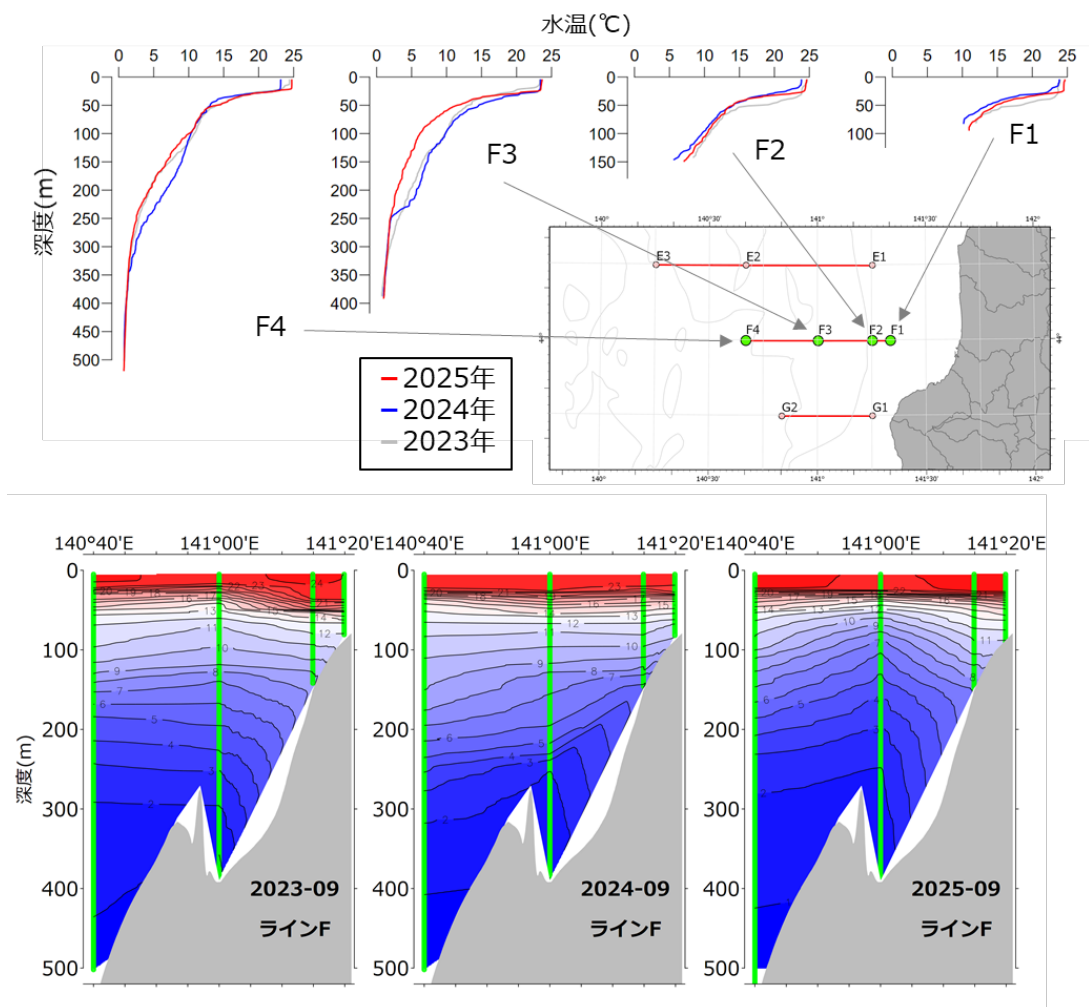


図 4. 留萌沖（ライン F）における水温の鉛直分布図.
 下図緑色縦線は海洋観測を行った地点を表しています.

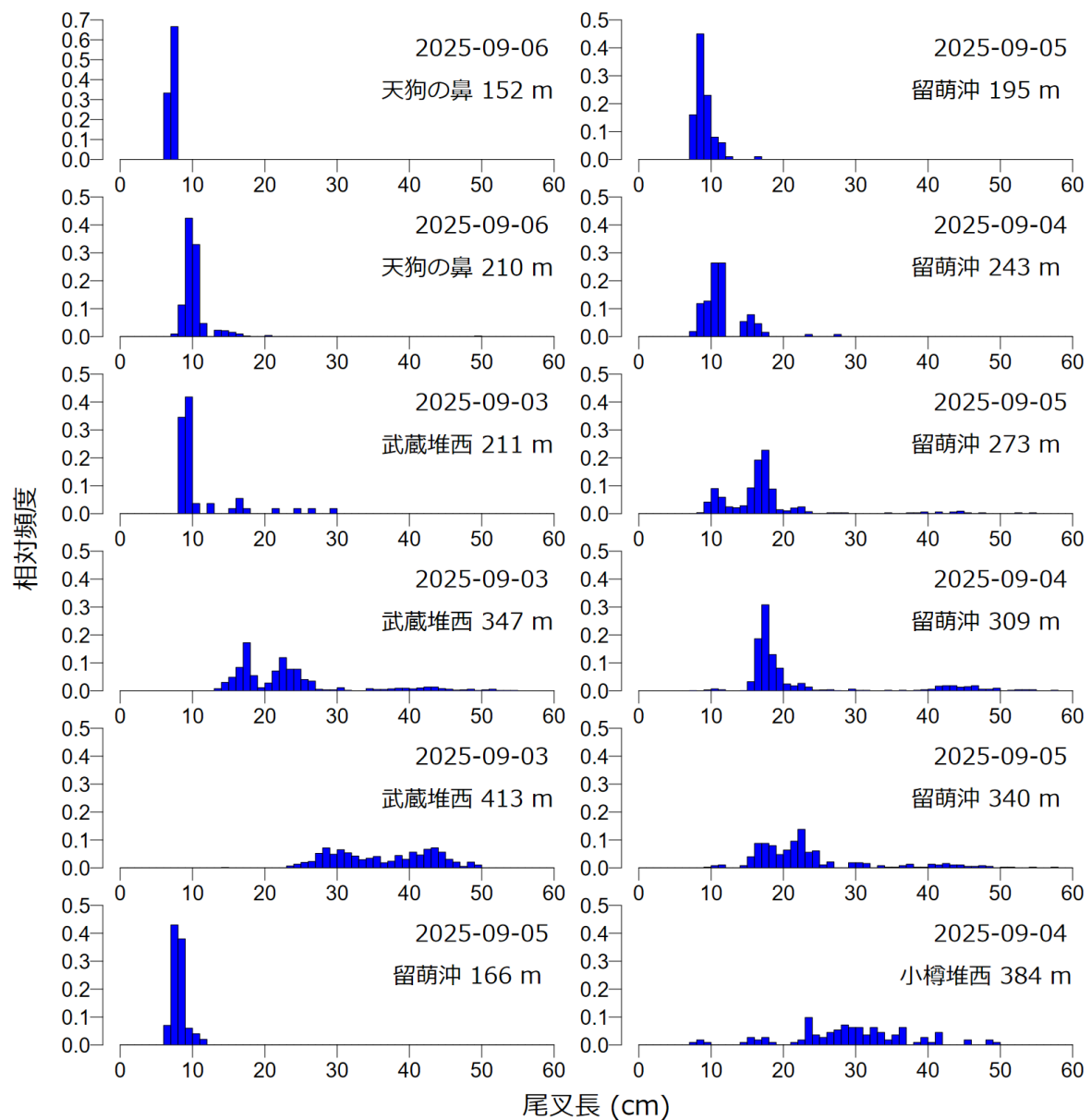


図 5. スケトウダラの尾叉長組成 (2025 年 9 月道西日本海).